平成２６年度全国学力・学習状況調査結果について

吹田市立第五中学校

本年４月に３年生を対象に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。この調査は実施教科が国語と数学に限られ、その結果は学力の一部であり学校における教育活動の一側面に過ぎません。まずそのことを踏まえ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善を図っていくことが調査本来のねらいであると考えております。

学校としましては現在、学力向上に日々取り組んでいます。今回の調査結果については、これまでの取組の成果と課題を検証する視点に立って活用していくとともに、保護者の皆様には本校生徒の学力状況についてお知らせいたします。今後とも学校と家庭で本校教育の推進について共に考えていく一つの資料として活用いたします。

なお、吹田市においても今回実施した調査についての成果及び課題・問題点を市のホームページ上で公表しております。

１．調査結果の概要

各教科に共通している内容

① 国語・数学とも「主として知識（基礎）」内容を問うＡ問題と、「主として活用（応用）」内容を問うＢ問題の４つの分野から出題されている。

② 調査結果から本校の正答率、大阪府全体の正答率、全国の正答率の比較により、本校生の課題を知ることができる。

③ 教科の調査に加え「生徒質問紙」として、日頃の生活習慣や学習習慣などのアンケートにより本校生徒の生活実態を知ることができる。

国語Ａ　※主な成果と課題

① 昨年度同様、すべての領域において大阪府の平均値を上回っている。

②「伝統的な言語文化と特質に関する事項（古典）」の領域が、特に大阪府の平均値を大きく上回っており、「話すこと・聞くこと」「読むこと」においても府の平均値を上回っている。

③「書くこと」の領域は他の領域に比べて、大阪府の平均値と同じ値になっている。

＜課題＞ 学習に向かう姿勢として、まず人の話をしっかり聞くと言った態度を心がけ、日々の授業を大切にする姿勢を身につけることが課題である。

国語Ｂ

① Ａの基礎分野に比べると、この応用分野では大阪府の平均値の比較からは課題が見られる。

② Ａの基礎分野において大阪府の平均値を上回る割合がもっとも少なかった「書くこと」の領域が、ここでは他の領域に比べてもっとも大きく大阪府の平均値を下回る値を示している。

③「読むこと」「伝統的な言語文化と特質に関する事項（古典）」の領域においても「書くこと」の領域ほどではないが、府の平均値を下回った。

＜課題＞単に知識だけを得ようとする学習ではなく、作品における登場人物の心情を読み取ったり、作者の意図するところを感じようとする読解力に課題が見られる。

数学A　※主な成果と課題

① ほぼすべての領域で、大阪府平均値を上回る数値を示している。
② その中でも昨年度同様、「数と式」「資料の活用」では大阪府平均値を大きく上回っている。
③ 数学A全体としては、全国平均値を上回っている。
＜課題＞数学Aでの「関数」の領域のみ平均値をわずかではあるが下回っており、今後その分野の基礎的な力を身に付けていくことが課題として考えられる。

数学B

① 数学A同様、ほぼすべての領域において大阪府平均値を上回る数値を示している。
② その中では特に「資料の活用」領域において大阪府の平均値を大きく上回っている。
③ 数学Bの「資料の活用」は全国平均値を上回っており、全体も近づいている。
＜課題＞数学という教科は特に日々の復習が重要な教科である。授業中に学習した新しい内容をそのときには理解をしていても、復習による反復学習を行わなければ定着していかない。そのための機会が家庭学習の時間であり、その習慣が学力向上の課題である。

生徒質問

この生徒質問は、日頃の子ども達の生活習慣や学習習慣について、さまざまな質問からその実態を探り課題を見つけ、今後の指導に活かしていこうとするものです。本校生徒の特徴的なものをいくつか紹介します。

①「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」という問いに、「している」「どちらかといえばしている」と答えた生徒の割合が、大阪府・全国の数値を大きく上回っています。これはいい結果だと言えます。
②「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という問いに、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合が、全国と大阪府の値はほぼ同じ数値を示しているのに、五中生のそれは大きく下回っています。少し残念な結果です。
③「４００字詰めの原稿用紙２～３枚の感想文を書くことは難しいと思いますか」という問いに、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた生徒の割合が、全国と大阪府の値を大きく上回っています。国語ＡＢの「書くこと」領域の数値があまり高くないことがこういったところにも影響していると考えられます。
④「数学の授業の内容はよく分かりますか」という問いに、「好き」「どちらかといえば好き」と答えた生徒の割合が全国・府の値を大きく上回っています。やはり、そのことが数学ＡＢの好結果に繋がっている考えられます。

２．今後の取り組み

学力向上の基盤となるものは、間違いなく日頃の「授業規律」と「生活規律」の定着です。今後の学校生活において、あらゆる機会を捉えて全職員でこのことに取り組みます。その定着が図れれば、必ず授業は落ち着き子ども達の授業に取り組む姿勢は変わります。授業の充実こそが学力向上のためのもっとも大切な要因であると考えています。今後ともより一層の本校教育へのご理解ご協力をよろしくお願いいたします。